1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100814			
法人名	株式会社福岡総研			
事業所名	鍋島紀水苑さくら			
所在地	佐賀市鍋島町蛎久1992-1			
自己評価作成日	令和3年11月6日	評価結果市町村受理日	令和4年4月8日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

62 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会			
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号			
訪問調査日	令和3年12月21日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域社会の中で四季、文化を通して感情感性を呼び起こし心豊かな生活を支援する事を理念としている。食器にもこだわり有田焼の源右衛門、深川製磁を使用し、佐賀の文化を取り入れている。午前、午後のおやつの時間も大切にし、和・洋とていねいなおもてなしを心がけている。広々とした苑庭でレクレーションやおやつの時間など野外活動ができる。食事の面では新鮮な野菜など1日30品目以上の食材を使った献立で見た目にも完食される様に工夫している。日当り、風通し共に大変よく、生活環境にも配慮している。春には近くに桜並木があり、居室から遠目に眺める事ができる。バルーン時期は沢山飛んでくる事があり、皆さん楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田園地帯に位置し、広い園庭があり、四季の景観を楽しむことができる。入居者全員が文化的に余生を楽しんでいただけるように、特に「食事」や「お茶」の時間に特化したサービスを提供されている。食事は毎日30品目以上の食材を使い全てホームの台所で手作りされている。主に佐賀の陶器の器に一品ずつ丁寧に盛り付け、季節感も取り入れながら、提供されている。陶器の食器を使用することで、家庭的な雰囲気や自身が大切に扱われているという特別感も感じることができる。また、一日に2回午前と午後にお茶の時間も設けれており、季節のイベントにちなんだおやつとそれに合わせたお茶を器やランチョンマットにも吟味して提供されている。ホーム長がお抹茶を入居者へ振舞われることもあり、日々の生活の中で楽みを見いたせるよう創意工夫がされている。

┃V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	↓該	取り組みの成果 当するものに〇印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 を掴んでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18、38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 〇 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30、31)	2. 利用者の2/3<5いが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
	利田老は、その時々の状況や悪望に広じた柔軟	○ 1. ほぼ全ての利用者が				

自	外	項 目	自己評価	外部評価	西
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .3	里念し	こ基づく運営			
1	(1)	〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	理念に沿ったケアが常にできるように玄関 ホールに理念を掲げ全職員で共有し実践し ている。職員採用時、理念について話をして いる。	職員一人ひとりが理念を意識しながら、日常的に入居者一人ひとりの感性を大事にした サービスを実践されている。	
2	(2)	流している	地域在住の職員がいて、地域の方々がいつでも立ち寄れるように声掛けをしている。野菜等の差し入れあり。	地域の自治会にも参加されており、防災面などの情報提供や協力なども日常的に受けられている。また、近くの民家から野菜のおすそ分け等もよく受け取られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	年度末の自治会総会(5、60名参加)におたっしゃ本舗鍋島と共に出席し、介護、認知症について話をし、理解を求める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	年6回の推進会議に自治会長、民生委員、 おたっしゃ本舗鍋島が出席される。クリスマ ス会には地域住民14~15名参加されだし 物等される。	コロナの感染予防のため、直近一年間は外部からの参加者は制限されていたが開催議事録等は誰でも見れる場所に掲示、関係機関に議事録を配布する等の取り組みが行われている。	
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	おたっしゃ本舗鍋島からの要望には極力応 えている。日ごろから入居者の問い合わせ 当頂いている。	ホーム側は実習生の受け入れを、おたっしゃ本舗からはホームに空室ができた場合の紹介や各種制度についての相談への対応など双方向での協力関係が築かれている。	
6	(5)	ドス指定基準における禁止の対象となる具体的な	玄関の施錠は新人の入居時等、臨機応変に行っている。身体拘束マニュアルを参考にしながら勉強会を行っている。身体拘束の適正化の為の指針に沿って年2回勉強会を行っている。	毎月全職員で身体拘束についての検討会を 行われている。現在身体拘束を行っている入 居者はいないが、防犯上の観点から玄関の 施錠を必要に応じて行われている。	今後玄関施錠の時間短縮等、取り組 みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎月スタッフ会議、勉強会で取り上げ、意見 交換している。又研修会の参加を促してい る。		

自	外	-= D	自己評価	外部評価	ш Т
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	以前は成年後見制度利用者があり職員は、 概ね理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約時に充分なせつめいをしている。又改定時は丁寧に説明をし、同意書を頂いている。解約は利用者の申し出に沿い行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	利用者や家族とは面会時に意見を聞いたり、相談に乗ったり、話し合いをしている。開設当初から毎月写真をメインにした苑便りを送り状況をお知らせしている。10月号で200号となる。	現在、面会時間の制限はあるが家族の面会を受け入れており、話しやすい空間づくりに気を配られている。入居者家族からの相談には、適切に対応している。また、毎月の便りを楽しみにしており、職員とのコミュニケーションツールとしても活用されている。	
11	(7)	〇運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議に出席し意見を聞き尊重し ている。代表者は職員の職務姿勢に感謝 し、意見に沿うようにしている。	勤続年数の長い職員が多く、職員間で意見のいいやすい雰囲気となっている。休みの希望等、勤務体制についても職員の事情を配慮しながら作成されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環 境・条件の整備に努めている	代表者は利用者家族と信頼関係を築き職員がケアし易い環境を整える事を常に考えている。1時間の昼休みはスタッフルームソファ等で休ませ午後の仕事がし易いように気遣っている。常々定刻に帰宅するように声かけし、殆んど守られている。		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	研修会にはいつでも参加出来る様に促している。参加費は内容に応じて助成している。 リモートでの研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	フランチャイズどうしで交流研修があり、希望職員が順番に他施設に研修に行き、良かった点を取り入れている。		

自	外	- -	自己評価	外部評価	ш
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II .5	と心と	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から意見、要望を真剣に聞き取り、安 心、信頼が保てる関係作りに努めている。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	契約時に家族の意向や要望を聞き、対応についての確認をして、負担の軽減に努めている。		
17		〇初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向要望を確認し、収集分析 した情報、原案を検討し要望に沿えるように 努めている。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、片づけ洗濯物干し、たたみ等 自分で出来る事は時間がかかってもして頂 いている。時にレクレーションのリーダーに なって貰っている。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族の面会時は居室で過ごして頂き、自宅でくつろいだ気分の雰囲気作りに努めている。苑のもてなしの心にも配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている		外食などホームでの対応が難しい場合は家族にも協力を得ながら馴染み関係の継続に 努められている。	
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で問題があるときは、職員が間に 入り他の事をして貰ったり、気分転換を図っ たり席替え等臨機応変に対応している。		

自	外	-= D	自己評価	外部評価	т
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		〇関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為に退去されても見舞いに行ったり、 家族が遊びに来られたり、こちらから連絡し たりと関係性を大事にしている。		
${ m III}$.	その				
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居者、家族との対話を大切にし、意向や 思いの把握に努めている。意思表示が困難 な場合は日ごろの表情、ご家族の話から汲 み取るようにしている。	日頃から会話を大事にされており、入居者の 思いの把握に努められている。会話が困難 な方については、表情やそれまでの関わり、 家族の話を参考にしながら職員間で検討を 重ねられている。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居時に本人、ご家族から話を伺い、これ までの生活についての把握に努めている。 又、生活歴シートを活用している。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者と個別に関わる時間を確保している。又勤務日以外のことは記録やスタッフへの聞き取りで把握出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	月1回のスタッフ会議で入居者の記録ノートを見ながら情報交換し、モニタリングを行っている。事前に本人、家族の意向を聞き、主治医等関係機関の意見を参考にした介護計画書を作成している。	半年ごとに入居者職員家族、関係機関に意見を聞きながら介護計画を立てられている。 モニタリングは毎月行われており、状況に即したプランを提供されている。	
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動記録にならないようにケアの 実践、結果、気付きを記入し共有できるよ う、スタッフ会議等で周知している。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の知人、往診クリニックDr、スタッフさんによるコンサートでは利用者に楽しい時間を提供している。		

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に一度の推進会議に地域の方に参加して頂き交流を図っている。クリスマス会は余興等多数参加して頂いている。消防士OBには避難訓練時指導をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	本人多族が布主する、かかりつけ医の文形	かかりつけ医への受診は家族の希望を尊重されている。受診は原則、家族対応となっており、ホームでは情報提供等の支援を行われている。	
31		〇看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを基本に僅かな変 化も見逃さないように気配りをし、少しの問 題点でも看護師や医師に相談している。		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	往診の医師や薬剤師とは日頃から話しやすい関係にあり、相談し易く家族も安心されている。入院時には面気に行き医師、看護師と話をし早期退院を促す。		
33	(12)	でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	数名の看取り経験があり、職員も理解できている。2名の重度化、看取り期があった。	入居時に意向を確認し、入居者の状態に応じて適宜家族への連絡や意思確認も行われている。今までに何度か終末期のケアを経験されており、職員間で協力しながら対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	救急車通報訓練は消防訓練時に全員行っている。救急車対応も経験あり、その都度 皆で話し合いスムーズに対応が出来る様に 準備の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、特に夜勤者の対応を重点的にしている。ご近所、地域住民との交流もあり災害時の協力をお願いしている。エリアメール受診時はご家族に協力お願いしている。	地域住民からの協力申出もあり、必要時には協力が得られる体制を築かれている。台風や水害などの災害時には協力関係にある旅館に避難するように体制を整えられており、昨年の台風時にも旅館へ避難されている。	

自	外		自己評価	外部評価	ш
一己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であつてもこちらの言う事が分かっていると思いながらの会話に努めている。お年寄りは人生にプライドを持たれていることを常に意識しながら対応している。	れている。入浴や排せつ介護の際にもできる	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人との会話中で希望や思い等聞き出し本 心を見極めながら出来るだけ沿ったケアを 心掛けている。(個別レクレーション、服装)		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者だけを優先にするとどうしても無理がいき職員の負担も大きくなる為、実務をこなしながら並行して本人の希望に沿った生活を支援している。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	お出かけや、イベント時は服を選んで貰い、アクセサリーやスカーフなどでオシャレを楽しんで貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つであり、健康にも影響がある為、見た目と栄養の両面を考慮しながら提供している。器にはこだわりを持っていて利用者には喜ばれている。準備、片付け等できる方にはお願いしている。	入居者は食事の時間を楽しみにされており、 食後は職員に対する感謝の言葉を言われる 方も多い。またお茶の時間も10時と15時にさ れており、季節感を取り入れた内容となって いる。	
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	栄養面では1日30品目目安の献立で完食出来る量を提供している。水分補給は日々十分に行っていて特に病気の時は量も記録し全体量をチェックしている。入居時から栄養状態が改善されている。		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食後はそれぞれにあった歯ブラシを使用し、 口腔ケアをしている。2週間に1回の歯科往 診可能。		

自	外	- -	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を見ながら排泄パターンを 把握し促す。夜間頻尿者はポータブルトイレ を使用して貰っている。	入居者の排泄パターンを把握されており、日中はポータブルトイレは極力使わずトイレでの排泄に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	殆んどがカマグを服用されているが、他には毎日ヨーグルトを提供している。マイナス時が続くと牛乳、ヨーグルト、繊維質食物を多く提供している。お腹、お尻のマッサージも行っている。		
45	(17)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本午前中だが、事情により、午後 に変更有。入浴拒否の場合は時間、日にち を変更している。	毎日、午前中に3名ずつ入浴していただいており、入浴の順番等入居者の希望を聞きながらサービス提供されている。入浴拒否される場合も足浴や清拭などで対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはマイペースで過ごされている。居 室で休まれたりホールソファーで休まれてい る。昼夜逆転しないように気を付けている。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬が届けられた内容をチェックし名前と日付を入れ各々1週間分を作り事務所に保管している。小分けした1週間分を食堂に準備し名前、日付を確認して手渡し、呑まれてしまうのを確認している。		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞、雑誌はいつでも見られるようにホールのテーブル、棚に置いている。編み物、読書、パズル等好きな事をされる時間を大切にしている。		
49	(18)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		なっているが近くの桜並木や地域のこいのぼり、公園のひまわりなど季節を感じられるよう	

自	外		自己評価	外部評価	ш
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事が理解できる方には必要時に家族から現金を渡して貰い、買い物時に本人が 支払される。混乱が生じたときは家族に相 談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	事前に家族に了解を取っていて、要望があればいつでも電話が出来る様に支援している。レクレーションで家族に手紙を書いてもらう事がある。		
52	(19)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールの壁を入居者と共に作成した 折り紙や飾りで演出していて季節感を取り 入れる工夫をしている。屋内はとても明るく 風通し、日当たりもよく洗濯物、寝具、調理 器具等日干しが出来衛生的です。	毎月、季節の行事にちなんだ飾りを入居者と 作成して、共有スペースに飾られている。お 茶の時間に季節の花を生けるなど、季節感 のある共有空間づくりに努められている。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	ホールには食卓以外にも丸テーブルがあり 又、窓際はカウンターになっていて広い庭を 眺めながらお茶や11月のバルーンを楽しむ 事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	れば持って来て頂いている。写真等、追加	使い慣れたソファーや椅子を居室に持ち込まれている入居者もおり、特に持ち込みの制限等は行われていない。また、居室の温度や換気にも配慮されている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	トイレ、お風呂などは分かり易く表示し、居 室入口には本人と分かるように写真を貼り、 自室を確認して頂いている。		